

牛久：学校周辺に見る自然

第61号 千葉県旭市

2012年1月7日発行

＜ 今年も よろしく お願いいたします。 ＞

皆様、明けまして、おめでとうございます。2012年、よろしくお願いいたします。今年最初のお便りも、私の故郷、千葉県旭市（旧海上郡飯岡町）の海岸よりお届けします。



22年度51号と同じ九十九里浜北端、実家のすぐ下の浜から。左の台地の突端が、銚子から続く屏風ヶ浦の南端、刑部岬。

今年、正月三が日もほとんど雲におおわれていて、日の出を拝むことはできませんでした。昨年は珍しく水平線に雲のないきれいな初日の出で（22年度51号）「今年は何かよいことがあるのかも…」と思ったものですが、その後3/11の大地震で、この海岸にも最大で7.6mの津波が押し寄せ、大きな被害がでました。上の写真からは、何事もなかったかのように見えますが、道路は波打ったままで、当時のまま使えない施設や応急処置だけの護岸などがあちこちに見られ、なじみの店や友人たちの家のいくつかも、なくなったままだったり、復興にはまだまだ長い時間がかかりそうです。

そんな中であって、海や砂浜の生きものたちは、私が思っていた以上に早く、この海岸に戻ってきました（第7号）。今回は、1/3に歩いた海岸で見られた生きものたちを紹介します。



トベラの赤橙色の種子（左）と、テリハノイバラの紅色の果実（右）。どちらも鳥に食べられ運ばれる。

まずは、赤い木の実2種から。左は防風林内のトベラ（トベラ科）。熟した果実はすでに裂け、赤橙色の種子が飛び出しています。ねばねばした物質に包まれ、鳥が食べたり、その体に付着して運ばれます。ただし、食べても消化できるのは表面のうすい部分だけで、ほとんど栄養価値はないようです。右は砂丘斜面のテリハノイバラ（バラ科）の果実。この実も鳥が食べて運びますが、あまりおいしくないのか、けっこう遅い時期まで食べられずに残っていることが多いようです。



波間に浮かぶスズガモの群れ。 右写真の手前がメス。 向う側がオス。 メスのくちばしのつけ根は白い。



浜に降りると、消波ブロックの手前に、スズガモの群れが見えました。冬鳥でオスの体は灰色。メスは褐色でくちばしのつけ根が白いのが特徴。水にもぐって、貝やカニなどを食べるそうです。



青灰色の体と黄色いくちばしの先の赤いもよう、ピンクの足が特徴のセグロカモメ。

波打ちぎわに目を移すと、カラスより少し大きめのカモメが歩いていました。そっと近づき観察してみると、青灰色の体に黄色いくちばしの先の赤いもよう、ピンクの足。たぶん冬鳥のセグロカモメだと思います。西日本に多く見られ、魚が好きですが、ゴミ捨て場の残飯なども、よく食べるそうです。



河口にもカモメが歩いていましたが、こちらはカラスよりもちょっと小さめ。体も白っぽく、くちばしは細く赤い。足も赤い。頭は白く、灰黒色の部分が2か所あるユリカモメ。冬鳥ですが、この辺りではけっこう長期間見られ、漁船の周りを群れ飛びながら、水面の1~2m上から急降下し、小魚を食べる姿がよく見られます。
← 赤いくちばしに赤い足が特徴のユリカモメ。



波とともに行ったり来たりするハマシギ、ミユビシギの群れ（手前）と、サーファーたち（向う側）。

そして、波といっしょに行ったり来たりし、エサをついばむハマシギ、ミユビシギの群れがいました。その向こうにはサーファーの集団も…。彼らもこの浜を愛し、支えてくれる大事な人たちです。



まるで子どものように、波と追いかっこしているように見えるハマシギ（左）とミュビシギ（右）。ハマシギの方がくちばしが長く首の周りから胸に薄茶の羽毛があり（中上）、ミュビシギは胸も喉も額もまっ白（中下）。



↑ 波が引くと、盛んに貝などをついばむハマシギとミュビシギの混群。 下はミュビシギ ↓



人が近づくと、いっせいに飛び立ち移動するハマシギとミュビシギの混群。 どちらも冬鳥。



下を向いて歩くと、けっこういろいろな、きれいな貝がらを拾い集められます。そんな中、表面にフジツボがたくさん付いた少し大きめの巻貝を見つけました。肉食でアサリなどを食べるアカニシです。よく見ると、まだ生きていました。茨城県南でも化石として出てくることがあるようで、私も千葉県柏市の水田で拾ったことがあります。
 ← 表面にフジツボがついたアカニシ。

こちらにも、たくさんアカフジツボ類がついています。ショウジンガニの死体です。磯や防波堤などにおいて、雑食で、岩につく海藻や小動物を食べるそうです。

表面にアカフジツボ類がついたショウジンガニ 残念ながら、死んでいた。 →



↑ 砂に半分うもれたヒトデ。

こちらもすでに死んで、砂に半分うもれていました。ヒトデの仲間です。このように砂浜には、貝やカニ、海藻など、いろいろな生き物が流れつきます。そして、砂もよく見てみると、この辺では砂鉄を豊富に含んでいます。ひたち野うしく小5年生にはちょっと話しましたが、この砂鉄がどこからやってきたのかなども、調べてみると面白いですよ。



西の空（右）から始まり、東の空（左）まで、みるみる伸び広がったジェット雲。

最後に、帰りに見つけた面白い雲。西から東まで、帯のように長く広がっています。冬には秒速 100 m以上にもなるというジェット気流による雲で、ジェット雲と呼ぶらしいですが（飛行機雲とかジェット機雲というのは別）、西の空に始まってみるみる東の空まで広がっていきました。いかがでしたか？ たまには、海もいいでしょ？ 次回からはまた、市内の自然を紹介します。【理科支援員 宮内】